高良興生院・森田療法関連資料保存会

ニュースレター あるがまま

NO.2　２００９年４月

ロシアでの森田療法

高良興生院・森田療法資料保存会会長　増野　肇

一昨年のバンクーバーで開催された国際森田療法学会で、私が指導するサイコドラマグループが森田先生の一生をソシオドラマ形式で上演した。引き続いて、昨年の９月にモスクワで森田療法を紹介するドラマを上演してきたので、そのいきさつを述べてみたい。

サイコドラマの創始者であるモレノは国際集団精神療法学会も組織して、最初の会長にもなった。モレノ生誕100年を記念する国際集団精神療法学会が1989年にアムステルダムで開催されたのだが、私はそのときに「モレノと森田」という演題で発表を行った。この二人の精神科医が考案した森田療法とサイコドラマという精神療法には共通点がある。幼児期の親子関係を問題とするフロイトの精神分析に対して、過去の出来事は問題にしないで現在を重要視し、考えることよりも実践すること、行動に重きをおくなどであるということを発表した。ところが、その論文を紹介した概要を読んで関心を持ったのがロシア人の心理学者、ナタリー・セミノワさんで、私に手紙をよこし森田療法についての情報を知らせてほしいと言ってきた。ちょうど、第１回の国際森田療法学会が浜松で開催されるときだったので、彼女を招待することにした。ロシア以前のソヴィエット時代がペレストロイカを迎えていた時だったので、何とか来日できたものの、土壇場まで連絡がなくて本当に来られるのか心配をしていた。それ以来、彼女は欠かさず国際森田療法学会や国際集団精神療法学会に参加して、私たちとも交流を深めていった。彼女は、臨床心理学を教えているが、ロシアでの森田療法の専門家として実績を作っていった。そのような訳で、一昨年の国際会議では、次期のオーストラリアに引き続いて、次々回は、モスクワでセミノワさんを会長として開催することになった。

最初に日本に来たときに、私の家内がいろいろ世話をしたことをとても感謝していて、一度、ロシアに来ないかと言われていた。この機会にロシアに行って、森田療法の話を

することで、国際会議開催の手伝いをしようということになった。ほとんど知られていないロシアの人たちに森田療法を理解してもらうには、やはり、ソシオドラマ形式がよいと考えて、サイコドラマ関係の人たちに協力を呼びかけた。そんなわけで、ただロシアへ行って見たいというだけのボランティアも加えて、ここに劇団が結成された。

シナリオは全面的に書き換えて、バンクーバーでも上演した森田先生がこの治療法を思い立ったいきさつと、重症の手洗い強迫の婦人に、仕舞いを習わせることで完治させたエピソードとに加えて、私が宇都宮のセンターで関わった事例で、『森田式カウンセリングの実際』に載せた日記指導の紹介を20分ぐらいのドラマにまとめた。例によって練習は東京で2回だけ、後は、モスクワで本番という、綱渡りであったが、ところどころに挿入されたロシア語もうけて、拍手喝采だった。

ロシアは、日本ブームで関心を持つ人が多く、森田療法だけでなく、日本の大学や文化についての質問も多かった。上演した場所が赤の広場の近くで、演劇関係者には有名なかのマールイ劇場のすぐそばであったのも印象に残っている。

終わってから散歩した赤の広場には、スターリンとレーニンのそっくりさんがいて記念写真を撮ったのも、美術館のような地下鉄の駅の体験もいい思い出になった。

高良先生の思い出

青葉クリニック　　岩木　久満子

私は残念ながら高良興生院の見学をしたことはなく、高良先生に直接のご指導を賜ったこともありません。ただ、東京慈恵会医科大学の精神医学教室に入局したことで、高良先生に少し関わることができました。精神医学教室では、毎年末に「同門会」という、本院・分院の全医局員やOB・OGが一堂に会する会が催されますが、私が同門会に初めて出席したとき印象深いことがありました。同門会の懇親会では元教授が一言お話されることが通例ですが、懇親会で高良先生が壇上に上がられた時に、その場にいる一同が一瞬にして静かになりました。元教授であれば静かにお聞きするのは当たり前なのですが、ただお聞きするという姿勢ではなく、皆さんの表情が笑顔になり、わくわくしている様子なのです。まだ入局して間もない私がその場の変化に驚いていると、先輩は「高良先生のお話は面白いんだよ」と教えてくださいました。内容は忘れてしまいましたが、高良先生は簡潔で明快なお話の中に皆を笑わせるユーモアを必ず織り込んでおり、以後私も高良先生のお話のときにはわくわくしながら静かに聞き入る一員となりました。また第三病院では、森田療法を初めて学ぼうとする医局員に対して、何冊かの本を推薦するのですが、その中で一番わかりやすかったのが、「森田療法のすすめ－ノイローゼ克服法－」でした。この本は実例

も多くあげてあるので、北西先生の森田療法の本が出てくるまでは、長いこと外来では患者さんにこの本を最初に読んでいただき理解の程度を測ったものでした。このような経緯から、高良先生のなさった入院治療の実際について長年関心を抱いていたので、保存会でいろいろな先生方からお話を伺うことで、少しでも多く知りたいと思っております。そして、これまで学んだ東京慈恵会医科大学付属第三病院と鈴木知準診療所での入院森田療法も合わせて、森田療法についての自分なりの理解をもっと深め、まとめたいという野望？を抱いております。

２００９年度総会

高良先生墓参会のお知らせ

２００９年度の保存会総会は、高良先生の墓参を兼ねて行います。
皆様で高良先生の墓参をし、その後、食事の席を設け、総会をさせていただきます。皆様ふるってご参加ください。
日時　２００９年５月１０日(日)　午前１１時集合
場所　ＪＲ小金井駅南口　その後、多摩霊園に行き墓参をいたします。
詳細は同封の案内をご覧ください。

春の心の健康連続講座

就労センター「街」研修室にて春の心の健康講座を開催します。
担当　増野肇先生
日時　①　３月１１日（水）午後２時～３時半　「心の健康について・・・ストレスをどう乗り越えるか」（すでに終了）
　　②　４月１５日（水）午後２時～３時半　「森田療法について」
於　就労センター「街」研修室　　＊保存会会員は参加無料

秋の心の健康連続講座のご報告

（事務局）足立　美知子

昨年９月から11月にわたり「秋の心の健康講座」を三回シリーズで行いました。
一回目は「神経症の外来森田療法」という題でお茶の水医院院長の市川光洋先生にお話していただきました。

二回目は「パニック障害・うつ病の森田療法」で、慈恵会医科大学教授の中村敬先生からお話を伺いました。

三回目は「ひきこもりと思春期」で、ひがメンタルクリニック院長の比嘉千賀先生にお話していただきました。

この全三回シリーズ講座にのべ８０名近い方がご参加くださり質疑応答も活発に行われ、大変有意義な会になりました。これからも心の健康講座などで皆様と一緒に心の健康について考えていけたらと思っております。次回のご参加もお待ちしております。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝保存会事業について＝＝＝＝＝＝＝＝＝

1　寄付お礼　資料室に貴重な書籍をご寄付いただきました。記して感謝いたします。

＜原田賢一様より＞

「ノイローゼの治し方」（鈴木知準、1974）「あるがままの世界」（宇佐晋一・木下勇作、１９８７）「歪められた鏡像」（岩井寛、１９８２）

＜瀬戸行子様より＞

「自己を生かす」（水谷啓二、１９６５）「神経質でよかった」（山野井房一郎、１９７７）「森田式生活３０年の体験記録」（山野井房一郎、１９６０）「私の考え方」（行方孝吉、１９５２）

＜廿楽昌子様より＞　「心を求めて」（関根牧彦、１９９６）

2　図書の購入

＊ 保存会では、森田療法に関する著書ばかりでなく、森田療法の成立に関わった人々の歴史的文献を収集して、皆様のご参考にしていただければと思っております。今期は下記の書物を購入いたしました。

「妖怪学全集１～６巻」（井上円了）「森田神経質及びその療法」（野田寿一郎、１９６０）「神経質並びに神経衰弱の性格治療」（高良武久、１９３３）「神経衰弱は必ず治る」（古閑義之、１９４０）「赤面恐怖の療法」（森田正馬、１９３５）「不安と恐怖の療法」（古閑義之、１９５８）「精神療法研究」（神経質改題、1969・1月、1970・8月）

＊ 今後も森田療法成立に関わる文献を収集していきたく思っております。なお、資料室には「今月の特集」として井上円了の著書、森田療法成立に深く関与したとされる井上円了の「心理療法」「心理摘要」のコピーを置いてあります。ぜひご参考になさってください。

3　今後の事業

＊ 保存会では、森田療法、森田先生に深く関わったかたをお尋ねし、そのインタビューをDVD に収めるという企画もしております。また高良先生の資料のスキャニング保存も進めております。

○ **今年度の会費未納のかた、下記の口座までお振込みください。（年会費 3000 円）**

００１３０－７－４６４４７　高良武久森田療法関連資料保存会・宛